

大学、専門学校の中退を考える(1)

大学や専門学校など上級学校に進学したが、残念ながら中退や休学する学生の数は少なくありません。文部科学省が毎年行っている学校基本調査には、大学・短大の中退者数は記載されていませんが、平成26年9月25日に『学生の中途退学や休学等の状況について』という報道発表を行いました。それによると、全学生数(大学・短大、高等専門学校生)2,991,573人のうち中途退学者は79,311人(2.65%)、休学者は67,654人(2.3%)という結果でした。中途退学者79,311人のうち学部生は70,367人であり、そのなかで私立大学生が61,681人と87%と約9割近い数を占めています。

大学中退率2.65%に4年間の4をかけてみると10.6という数値が示されます。これが近年いわれる大学生の中退率が10%を超しているという根拠になっています。大学中退率の平均が10%を超していますが、独立行政法人労働政策研究・研修機構が平成27年5月28日に発行した『大学等中退者の就労と意識に関する研究』には、ベネッセの偏差値を用いた偏差値別の中退率が記されています。それによると偏差値39の大学だと17.2%、40-44だと16.9%、45-49だと11.6%となり、65-69だと3.0%、70以上だと2.2%となっています。国立大学で偏差値70以上の大学では1.5%という数値の結果が示されています。この結果から偏差値と退学率に一定の関係があるといえます。

文部科学省の報告では、大学を中退した理由は、経済的理由(20.4%)、転学(15.4%)、学業不振(14.5%)、就職(13.4%)となっています。先ほどの労働政策研究・研修機構の研究では、平成26年8月～10月の間にハローワークで中退者の調査を実施し、中退理由(複数回答)を尋ねると「勉強に興味・関心が持てないから」(47.4%)、「単位が不足したから」(39.9%)、「経済的に苦しかったから」(26.1%)の順になっています。さらに、最も重要な理由を尋ねると、「勉強に興味・関心が持てないから」(19.9%)、「単位が不足したから」(12.1%)、「経済的に苦しかったから」(12.1%)の順になっています。

なぜ、これほど多くの学生が退学してしまうのでしょうか。文部科学省の報告では中退理由の1位は経済的理由ですが、労働政策研究・研修機構の研究では中退理由の1位は勉強に興味・関心が持てなかったことになり、続いて単位不足が挙げられており、中退者の多くは適性不足や学業不振という理由があげられます。(続く)

「入学式での祝辞」

校長

横浜清陵高等学校に入学した皆さん、誠におめでとうございます。本校を代表して校長の私より祝意を述べさせていただきます。また、愛情を持って今日まで育てられてきたご家族や関係者の皆様に対しても心より祝意を述べさせていただきます。さらにご多忙のなか、晴れの入学式にご臨席を賜りました来賓の皆様には、厚く御礼を申し上げます。さて、私から入学に際して一言申し上げさせていただきます。

皆さんが受検した平成30年度の公立高校入試で、本校は志願変更前1.61倍という高い競争率になり、志願変更後も100人の受検生が涙を呑む結果となりました。この狭き門をくぐり入学してくれた皆さんに、改めてお祝いと感謝を述べさせていただきます。

さて、今日4月6日は、アメリカ合衆国初代大統領ジョージ・ワシントンが、1789年に大統領に選出された日です。現在のアメリカの基礎を築いたのは、ジョージ・ワシントンを始め、2代目ジョン・アダムス、3代目トーマス・ジェファソンら初期の3代の大統領だといわれます。日本の徳川時代が長く続いたのも、家康を始め秀忠、家光の3代が徳川幕府の基礎を築いたからといわれています。本校の「横浜清陵」というブランド、伝統を築き上げていくのは、貴方たち2期生の役目でもあり、私たち教職員の責務でもあります。

皆さんは平成30年4月6日の今日、神奈川県立横浜清陵高等学校の第2期生として入学しました。本校の卒業生台帳には266番の番号しか振られていません。しかしこの地は戦前の横浜高等商業学校以来、90年にも及ぶ学び舎の歴史があります。先週満開だった桜は、皆さんより先に新年度を迎え新芽を出し、新葉になり、この1年間また生命をつないでいきます。皆さんも高校生活のなかで成長してください。そのためには中学校生活を振り返り、自らを高めるための目標を定めてください。成長するために振り返りは重要なもので感想や反省ではありません。目標に向けてできたこと、できなかったこと、やりなおすとしたら、次はどうする、などの視点で考えてみましょう。振り返りを日々続けたら、卒業するとき大きな成長の軌跡を生むことになると思います。

アメリカの発明王トーマス・エディソンは「わたしは、今まで一度も失敗をしたことがない。(白熱)電球が光らないことの発見を、いままで2万回したのだ。それは失敗じゃなく、その方法では上手くいかないことが分かったのだから、成功なのだ。」という名言を残しています。失敗し、悩み、苦しむことを成功に繋げるために振り返りがあるのです。失敗したと思ったときこそ、必ず振り返りを行いましょ。失敗を恐れず、挑戦し、振り返ることこそ、皆さんが成長する秘訣なのです。振り返りは教員に点数を点けてもらうためではなく、自分のためにあるのです。振り返りは、教員からいわれるからではなく、自ら振り返るといふ本人動機がないと、意味のあるものになりません。自らの行動や思考を第三者的、批判的にみることによって客観的に自分を振り返ることができるのです。振り返りの回数が多ければ多いほど、成長の度合いが大きいと思います。本校で振り返り、成長して巣立ってください。

私達教職員は、皆さんが高校生活を送るなかで成長するための支援を行っていきます。以上をもって横浜清陵高等学校を代表し、校長からの祝辞とさせていただきます。